

県本部・活動拠点本部会議(8月6日・朝)議事要旨

1. 各拠点の活動状況

八代拠点

熊本県 DWAT 3 名、長崎 DWAT 4 名アリーナ、福岡 DWAT 福祉避難所 5 名。八代拠点では、アリーナ避難所における介護ニーズへの対応を継続するとともに、シャワー浴 7 名支援、入浴に関するアセスメント、や福祉避難所入所者の退所・移行先を調整する「出口支援」を重点的に進めることが確認された。また、鏡地区の避難所巡回や包括支援センターからの要請への対応を行い、午後には圏域の保健・医療・福祉調整会議へ参加する予定である。

宇城拠点

宇城拠点では、大分 DWAT 第 2 陣 4 名を受け入れ、不知火防災拠点において DMAT・JRAT・DWAT の合同で高齢者施設要介護 3 から 5 の方の確認、避難者の状況確認を実施する。施設の被害状況の確認の予定。必要に応じて搬送支援も検討するほか、小川防災センターでは段ボールベッド設置に伴う避難者の移動支援を行う。また、手帳を持つ障がいのある世帯へのプライバシー確保や、自宅の被災状況を確認したうえで生活再建につなげる出口支援を進めることが共有された。

氷川拠点

氷川地区では、避難所の収容能力が限界に近づいており、福祉避難スペースの運営や関係機関との連携に課題があることが報告された。一方で、本部からは行政主体の指揮体制へ移行する方向で調整が進められていることが説明された。また、避難者は 45 名・29 世帯で、大きな体調不良者はなく、避難所内のレイアウト変更や DMAT による 24 時間体制の支援が開始されていることが報告された。※施設職員の応援派遣開始した情報の共有

2. 本部からの連絡事項

本部からは、各拠点リーダーの負担軽減を目的として、ロジスティクス支援担当を各拠点へ配置することが報告された。ロジサポート人員(中央センター

運営委員：斎藤委員氷川、杉山委員八代、森委員宇城)は情報整理や優先順位の判断、各種調整などを担い、現場活動を支援する。

また、モニターやスピーカーなどの機材を順次配備するとともに、台湾から提供されている折りたたみベッドやパーティションについても、必要に応じて調整可能であることが共有された。

ケアマネジャー協会が各自治体の保健・医療・福祉調整会議へオンライン参加できるよう調整を進めるため、各拠点へ会議日程や参加 URL 等の共有が依頼された。

3. 課題・共有事項

氷川地区では行政・DMAT・支援チーム間の情報共有や指揮系統に一部課題が見られることが報告された。また、市町村職員が応援職員を十分に活用できていない状況も共有された。

加えて、一部の福祉施設では介護用おむつなどの物資不足が発生し、ケアの継続に影響が出始めていることから、不足物資や支援が必要な施設の情報を速やかに本部へ共有し、支援につなげることが確認された。

4. 情報共有体制の整備

D24H による情報共有体制については、各拠点に専用パソコンを配置し、担当者が交代しても継続して情報共有できるよう、本部で Google アカウントを整備する方針が示された。

5. 今後の対応方針

高齢者や要介護者への支援を最優先とし、避難生活中的支援だけでなく、退所後の生活再建を見据えた「出口支援」を重点的に進めることが確認された。また、DMAT・JRAT・DWAT・行政の連携をさらに強化するとともに、本部によるロジスティクス支援や物資支援を活用し、現場の負担軽減と迅速な課題解決を図っていく方針が共有された。